

# 領域アドバイザーが語る！ ACT-Iの魅力と若手への期待

うちだ せいいち  
**内田 誠一**

九州大学 大学院  
システム情報科学研究院 教授

みなとしんいち  
**湊 真一**

京都大学 大学院  
情報学研究科 教授

かわらばやし けんいち  
**河原林 健一**

国立情報学研究所  
情報学プリンシプル研究系 教授

12人の領域アドバイザーは、いずれも情報学の第一線で活躍する研究者ばかりだ。担当アドバイザーは、研究計画や内容について助言や指導し、若手研究者たちを力強くサポートする。成果発表会に駆け付けた3人のアドバイザーがACT-Iの魅力や若手研究者たちへの期待を語り合った。

## 基礎から応用まで幅広く 意識の高さに驚かされる

**湊** ACT-Iの研究者は年齢が若いので、非常に元気が良く、尖っているというのが、最初の印象でしたね。大いに刺激を受けました。

**河原林** 35歳未満の若手に絞っているのは、日本の若手プレイヤーの増加につながる画期的な取り組みです。ただ世界を見渡せば、情報学の国際会議では、発表者の多くが26、7歳なので、もっと若い研究者が来てくれてもいいくらいです。

**内田** 研究分野が幅広いことも、ACT-Iの特徴ですね。情報学の多様な広がりを感じました。私が担当したのは土木や医学の研究者でした。異分野の情報学を積極的に学び、直面する問題の解決を図ろうとする姿勢は素晴らしいですね。若手研究者の意識の高さに驚かされました。

**湊** これからは自分の育ってきた研究コミュニティだけを発展させればよい時代ではなくなります。さまざまな分野の若手研究者同士が情報学を軸につながることは、今後の大きな財産になるでしょう。

**河原林** 基礎と応用の両方がそろって

いる点も特徴ですね。同じ分野だけの小さな研究コミュニティには視野が狭まり、なかなか新しいアイデアは生まれてきません。同世代の30人が幅広い分野から集まること自体、非常に刺激的です。同世代が頑張っている姿を見て、負けてはいられないという気持ちになります。

## 活発な議論と異分野交流で 世界的な研究者へ成長を

**内田** 領域アドバイザーが若手研究者を訪問する「サイトビジット」の他に、私のところでは、若手研究者からの提案で、担当する研究者全員に自分の研究室に来てもらう「逆サイトビジット」を行ってみました。お互いの研究内容について議論して、若手研究者同士の交流も活発になりました。

**河原林** 領域アドバイザーは研究者と共同研究はしない、論文の共著者にならない、という取り決めでしたので、第三者の立場で、学術的な議論が思い切りできました。アドバイザーも他のプログラムに比べて、年齢が若めでしたね。

**湊** 筆頭著者としても仕事をするようなアドバイザーがそろっていたので、アドバイザーとしてだけでなく、対等な研

究者同士としての議論も盛り上がりました。領域会議はいつも深夜まで議論が尽きず、アドバイザーも集まるのが楽しみでしたね。アドバイザーのプレゼンテーションもあって、私自身にとっても真剣勝負の場でした。

**内田** ACT-Iがこんなに楽しくて面白いのは、よりよいプログラムにしようと努力を惜しまない後藤先生の方が大きいですね。領域会議では、同じ分野の研究者だけで固まらないように、あらかじめ座席が指定されていました。

**湊** 異分野の研究者同士が交流すると伸びますね。互いに自分の研究を説明し、どんな未来にしたいかを伝え合うことが大切です。成果報告会のプレゼンテーションがとともわかりやすく、成長を感じました。

**内田** 情報学はあらゆる分野に欠かせないので、年齢や分野を問わず交流してほしいですね。研究者としても人間としても、大きく成長できると思います。

**河原林** 基礎的な理論や技術の知識をどのように若手研究者に継承できるか考えながら、ずっと指導に当たってきました。ACT-Iで学んだことをぜひ次の世代にも伝えてほしいですね。10年後に世界をリードする人材が出ることを期待しています。